



学校法人 志賀学園  
認定こども園  
平第一幼稚園  
令和5年4月28日

## 5月の園だより

新緑のまぶしい季節になり、鳥のさえずりも楽しそうに聞こえてきます。  
園庭のこいのぼりも、爽やかな風のにり、気持ちよさそうに泳いでいます。

泣きながら登園して来ていた新入園児の皆さんも、一人ひとり泣いている時間が短くなってきて、今では泣かずに生活できるようになりました。日々の生活の積み重ねが安定した生活へと繋がってきているようです。また、進級児は集団生活に慣れてはいるものの、新しい環境に緊張感を持って生活しているお子さんもありますので、子どもの気持ちを受け止め、子ども一人ひとりと心を通わせ、子どもの言葉や態度に共感し、より良い信頼関係が築いていけるようにしていきたいと思います。

0～1歳児クラスのちゅうりっぷ組とたんぼ組のお子さんが先生に向かって手を差し伸ばす姿は、こども園のお母さんとして信頼関係ができたことを感じます。

もも組の子ども達は、泣きながら登園する子も多かったのですが、おんぶや抱っこで先生に温かく関わってもらうことにより安定した気持ちで過ごすことができるようになってきました。

ばら組の子ども達も、泣きながら登園する子もいましたがだんだん落ち着いてきて泣き声も少しずつ聞かれなくなりました。先生と一緒にブロックやおままごとで遊んで楽しむ姿も見られ、生活のリズムや1日の流れも覚えてきました。

すみれ組の子ども達は、進級したことで戸惑いや不安な様子が見られましたが、新しいお友だちの名前を覚え、お部屋で仲良く遊んだり、園庭の遊具や人工芝生に寝転んで感触を楽しむ姿が見られるようになりました。

さくら組の子ども達は、先日、初めての習字教室がありました。正しい姿勢で鉛筆を持ち、手首を動かして縦線や横線、丸などを書いたり、絵の具用の筆とは違う習字の筆を持って、戸惑う子や緊張している子もいましたが、智子先生のお話を聞いて真剣に取り組む姿が見られました。

さて、5月5日は、「こどもの日」です。もともと5月5日は「端午の節句」で、男の子の健やかな成長や幸せを祈って、お祝いをする日でした。1948年に、5月5日を「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」お休みの日と決められてから、端午の節句の日が、こどもの日にもなったそうです。そのため本来は男の子のための日だったけれど、今では子どもたちみんなをお祝いするようになりました。子どものお祝いだけじゃなくて「お母さんに感謝する」という意味もありました。

明日からゴールデンウィークに入りますが、連休明けの子ども達は、4月のはじめの頃に戻ってしまうケースも少なくありません。連休中も疲れすぎないように、規則正しい生活を心がけてお過ごしくださいますようお願いいたします。

吉竹 芳江